

青少年ふくしま

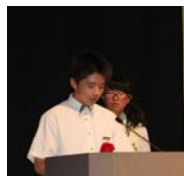
福島県青少年育成県民会議
第49号
平成28年1月12日(火)

明けましておめでとうございます。昨年は福島県青少年育成県民会議の行事や運営につきまして多大なる御支援・御協力いただきましてありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願いたします。明るい未来に向かって子どもや若者が健やかに伸びる社会を築いていきましょう。「青少年ふくしま」49号では、今年度実施事業をお知らせいたします。

第37回少年の主張県大会 ～未来をめざして今をしっかり生きる

昨年(平成27年)9月25日(金)、南相馬市民文化会館ゆめはつとを会場として「第37回少年の主張福島県大会」が開催されました。平成27年度は県内39市町村の中学生から14,676点の作文応募がありました。各市町村民会議から本県民会議に121点が推薦され、第1次・第2次審査により決定された代表者16名が、日ごろ考えている自分の思いや願いを810名の聴衆を前に堂々と発表しました。発表に先立ち内堀雅雄福島県知事と開催地の桜井勝延市長よりご挨拶とあたたかい励ましの言葉をいただきました。

各発表者は、持ち時間(5分程度)の中で表現力豊かに自分の考えを述べました。会場では南相馬市内各中学校の生徒約600名はじめたくさんの方が真剣にそれぞれの発表に耳を傾けていました。また、司会は原町第一中学校3年生の角南圭祐さんと齊藤美空さんが担当し、スムーズに進行してくれました。



主張の内容は多岐にわたりましたが、どの発表からも「未来をめざして、今をしっかり生きていこう」という意欲が伝わってきて胸が熱くなりました。福島県の将来を担う強くしなやかな精神は心強いものです。発表終了後は原町第一中学校吹奏楽部の皆さんによるすばらしい演奏を鑑賞し、心やすらぐひとときとなりました。引き続き審査結果発表と講評を聞き、表彰式では杉原陸夫審査委員長より最優秀賞1名、優秀賞5名、優良賞10名に賞状と輝くトロフィーや盾が授与されました。以下に発表者の主張概要をご紹介します。(ホームページで全員の発表を聞くことができます)



<発表者の主張概要紹介>

最優秀賞 平和への一ページ 富井和奏さん(白河市立白河第二中学校3年)

17才のノーベル平和賞受賞者マララ・ユスフザイさんの「銃を渡すことはとても簡単なのに、なぜ本を与えるのはそれほど大変なのか。」という言葉が胸に強く突き刺さった。世界中の子どもたちが人としての生き方を正しく教育されることを願って、カンボジアへ送る絵本に(翻訳の)シールを貼るボランティア等今できることに積極的に関わっていきたい。

優秀賞 背伸びしてでも 鈴木友希恵さん(白河市立東中学校3年)

自宅前で起きた悲惨な交通事故現場で適切な処置と人命救助にあたったのは消防士の兄だった。兄の後押しもあり、職業体験学習では消防署を選び、ますます夢が膨らんだ。しかし夢を実現するには厳しい訓練や資格そして基準の身長が必要なこと等を知り不安になったが、女性ならではの可能性があることを信じ、背伸びしてでも尊敬する兄を目標に夢をつかみたい。

優秀賞 命の重み 吉田真里花さん(鏡石町立鏡石中学校2年)

ゲームのことなのか「死」を軽く考えている小学生の言葉が胸に刺さり、子ども達が戦争の

道具となり残酷な死を迎えると言うニュースに怒りを感じた。学校で「命の授業」を受け、妊娠している先生のお話を聞いて自分の命も両親から心待ちにされていたことを理解した。自分の体と命を大切に社会にも平和にも目を向けしっかり生きていきたい。

優秀賞 **小さな幸せ** 伊藤愛菜さん(南相馬市立原町第二中学校3年)

以前は県大会めざして果敢に戦っていたバレーボール部だが、馴れ合いから部員の関係が歪み、自分のポジションには不満が募っていた。なげやりになっていたとき、世界をめざしながら痛と闘い続けた横山友美佳さんの著書が胸に響いた。「小さな幸せ」の大切さに気づき、自らチームの要となって行動し悔いのない試合と感動で部活動をしめくることができた。

優秀賞 **父の背中** 長谷川奈生さん(石川町立石川中学校3年)

老人ホームで働く父は、夜でも電話が来ると出かける。父に頼み職場見学した。老人ホームでは、父は出会った人全員に優しい口調で尋ね相手は柔らかな笑顔になった。また、介護現場の大変さも理解出来た。夏祭りの準備を手伝い、人のために何かをする意義と心地よさを知り、父のように生きていきたいと考え始めている。父の背中を手本として。

優秀賞 **無知を知る** 穴澤佳奈さん(会津坂下町立坂下中学校3年)

「水俣との交流事業」参加をきっかけに自分の「無知」に気づいた。水俣病のことばかりでなく、これまであまり関心を持たなかった福島県の問題についても詳しく学習するようになった。福島に住む自分たちが福島の現状について正しい知識を身に付け、少しずつでも後世に伝えていくことが復興につながると思う。水俣のように粘り強く実践したい。

優良賞 **明日の自分に自信を持つ** 矢部健人さん(郡山市立日和田中学校3年)

走ることもサッカーも苦手で選手としてピッチに立てなかったが、サッカー部の副部長に選ばれ、部員にも先生にも認められて部活を終了できた。その理由は、部活動の準備・片づけ・気遣いについて全力でサポートしようと「自分革命」を起こしたからだ。「人の悪口を言わない、人の意見を優先」も続けた。今も、明日の自分に自信をもっている。

優良賞 **私にできること** 星 香さん(南会津町立館岩中学校3年)

6年前から地域の舞台活動に参加し、地元の百姓一揆の歴史を知った。義民の切実な思いが今の自分の幸せな生活までつながっていることを理解し、都会への憧れより地元の素晴らしさを発見できた。東日本大震災と原発事故についても風化させないため、義民の歴史と同じく後世に語り継ぐことが私にできることと気づき、今をせいっぱい生きている。

優良賞 **発言することの大切さ** 野田将太さん(伊達市立松陽中学校3年)

たった一人の発言でも社会を変える可能性がある。発言・質問・議論がほとんどなかった生徒総会だったが、生徒会本部の一員としてパソコンの活用や「見せる」工夫等で改善できた。これに満足せず、生徒会活動に無関心な生徒達に働きかけていきたい。そのためにも言葉の意味を理解し、内容に興味を持ち「発言」することが大切だと考えている。

優良賞 **意識の変革を今** 島 才加さん(南相馬市立原町第三中学校3年)

単調な日常生活を送っている自分の心に衝撃を与えたのはマララ・ユスフザイさんのニュースだった。女性だから学べない、発言できないという国がある。かつて日本も女性が学べないこともあったが、現在の日本に生きる自分の幸せを実感する。だれもが夢や希望を共有できる世界をめざし、今こそ自覚して意識を変革し、行動していきたい。

優良賞 **魔法のことば** 但野元紀さん(新地町立尚英中学校1年)

担任の先生と明るく元気なあいさつを交わし、言葉の使い方を教えていただく中で「言葉」の大切さを知った。言葉は、人を励まし勇気づけたりやる気を起こしたりする魔法の力を宿していると思うが、相手を深く傷つけてしまう危険性も持つ。中学生になったので、自分の発する言葉に責任を持ち、「魔法のことば」を使いこなせる大人に成長したい。

優良賞 **夢の実現に向けて** 松本樹莉菜さん(伊達市立霊山中学校2年)

病気の祖父を優しく看護する看護師の姿にあこがれ、小学校の時から看護師になる夢を持っていた。中学2年になり病院で3日間の職場体験学習を通して、看護師としての専門知識とともに患者とその家族に寄り添う心の大切さを学んだ。将来は自分の生まれ育った福島の看護師としてふるさとの医療に貢献するため今の生活の中でたくさん吸収し積極的に学んでいきたい。

優良賞 **言葉を交わしてみませんか** 佐藤 陸さん(南会津町立荒海中学校2年)

単身赴任している父とメールでやりとりはするが、父が帰宅したときは言葉を交わし自分の考えを詳しく伝え、父の考えの真意もわかる。スマホなどは便利で楽しく利用できるが、人と人とのコミュニケーションの原点は「言葉を交わすこと」だと思う。目を見て話し、心のこもったコミュニケーションでお互いの本当の心が見えてくると思う。

優良賞 **「私らしく生きる」** 斉藤有美さん(南相馬市立原町第一中学校3年)

4年前に東日本大地震・原発事故を経験し、つらい生活の中で自衛隊音楽隊の見事なハーモニーが心に深く響いた。中学校吹奏楽部ではフルートを担当しているが、家族を支え南相馬で生き抜く母のぶれない強さとたくさんの支援や支えはオーケストラのハーモニーのように思えてきた。私は私らしく音楽を通して南相馬の復興への道を共に歩んでいきたい。

優良賞 **「自分の夢を持って欲しい!」** 今野太幹さん(桑折町立醸芳中学校1年)

小さい頃から自動車が大好きで「自動車エンジニア」になるという夢がある。中学校で夢に向けて理科の勉強をしていると勉強が楽しくなり成績も向上した。すると心に余裕ができ、桑折町の歴史・自然・特産物にも目を向けふるさとの良さも発見できた。だから、ぜひ「自分の夢」を持って夢の実現のため今やるべきことに一生懸命取り組んでほしい。

優良賞 **祖父から学んだこと** 鈴木楓花さん(鮫川村立鮫川中学校3年)

脳梗塞で右半身がまひした大工の祖父は退院後、自ら家のリフォームを始めた。不自由な身体で生き生きと仕事をする祖父を見てバリアフリーの住宅に興味を持つようになった。また、家では安全でも外出先や温泉施設ではバリアフリーが進んでいないことも知り、将来の仕事として関心を持ち始めた。病気になっても笑顔をやささない祖父が心に夢を与えてくれた。



「第38回福島県青少年健全育成推進大会」開催

～生かそう、きずな。未来のために！～

平成27年11月20日（金）、福島県文化センター小ホールにおいて「第38回福島県青少年健全育成推進大会」を開催いたしました。

開会に先立ち、オープニングセレモニーとして福島市立信夫中学校合唱部の皆さんによるさわやかな歌声がホールいっぱいに響きわたり、大会に花を添えていただきました。

開会の言葉に続いて福島県知事（副知事が代理）の主催者あいさつがあり、続いて表彰式にうつりました。その後、福島県教育委員会教育長様、福島県警察本部長様から祝辞をいただきました。「家庭の日」作文コンクール及び「少年の主張」最優秀賞受賞者の発表もありました。

1 福島県青少年健全育成条例に基づく知事表彰



○青少年団体の部 郡山少年団体リーダーズクラブ様（郡山市）

○青少年育成団体の部

公益社団法人ガールスカウト日本連盟福島県第20団様（二本松市）

郡山市青少年健全育成推進協議会朝日が丘地区協議会様（郡山市）

会津若松地区少年警察ボランティア協会様（会津若松市）

いわき市青少年育成市民会議四倉地区推進協議会様（いわき市）

○青少年育成者の部

佐藤喜市郎様（福島市）大藤 務様（二本松市）中山重一様（郡山市）大野正美様（白河市）

近 輝夫様（喜多方市）酒井 壽様（猪苗代町）永山美代子様（いわき市）

2 福島県青少年育成県民会議会長表彰

○善行青少年の部 湯浅 稜様（福島県立大沼高等学校）

○青少年指導者の部

佐藤純子様（福島市）羽田美子様（福島市）服部弘一様（福島市）

菊池アヤ子様（伊達市）五十嵐秀夫様（郡山市）関根一男様（須賀川市）

鈴木勝治様（白河市）近藤 徹様（西郷村）星 勝政様（会津若松市）渡部輝夫様（会津若松市）

結城志英吉様（喜多方市）星 広一様（下郷町）高坂あや子様（相馬市）伊賀和子様（南相馬市）

松崎總一郎様（いわき市）野崎利恵子様（いわき市）金野博子様（いわき市）

○青少年団体・青少年育成団体の部

森合小学区青少年健全育成推進会様（福島市）ガールスカウト福島県第31団様（福島市）

梁川ざっと昔の会様（伊達市）ボーイスカウト桑折第1団様（桑折町）郡山市久留米水天宮船太鼓振興

会様（郡山市）田村地区少年警察ボランティア協会様（三春町）喜多方剣道スポーツ少年団様（喜多方

市）明和青年団様（只見町）相馬地区少年警察ボランティア協会様（相馬市）

いわき南地区保護司会様（いわき市）



○青少年育成市町村民会議の部

矢吹町青少年健全育成推進会議様 南会津町青少年育成町民会議様

○青少年健全育成成功労者の部

鈴木正勝様（福島市）近澤美紀子様（二本松市）安部洋子様（郡山市）

山崎栄一様（いわき市）

3 「家庭の日」作文、絵画、ポスター作品最優秀者知事表彰

長沢裕太さん（伊達市立大田小学校1年）武澤実夢さん（国見町立国見小学校4年）

磯 光清さん（平田村立蓬田小学校5年）高橋優花さん（磐梯町立磐梯中学校3年）

渡部詩苑さん（会津若松市立湊小学校1年）池田翔吾さん（磐梯町立磐梯第二小学校4年）

鈴木博大さん（郡山市立多田野小学校6年）王 佳恵さん（ザベリオ学園中学校3年）

※ 「家庭の日」作品コンクール最優秀作文・絵画・ポスターは「福島県青少年育成県民会議」のホームページで紹介しています。